



わたしたちの 生活と金融の働き

教師用指導マニュアル



CONTENTS

本教材を利用する先生方へ

●はじめに ●この資料の利用について ●活用の手引き…………… 2

高校生用本編(CD-ROM)の構成…………… 4

学習指導要領との関連…………… 6

授業の展開例…………… 7

学習指導要領における記述…………… 19

●学習指導要領「公民」における記述

●学習指導要領「家庭」における記述



本教材を利用する先生方へ

はじめに

わたしたちの生活にとって、金融は重要な役割を果たしています。仕事の中にも生活の中にも、「金融」にかかわることは数多くあります。

しかし最近の子どもは、お金や物に困まれた豊かな家庭で育つケースが多く、働いて生計を立てる自覚や実社会に即した職業観に乏しいといわれています。しかも、現代社会はIT化が進み、実際にお金のやり取りを行う場面はどんどん少なくなっています。そのため、クレジットカードなどの安易な使用によって、収入に合わない支出を繰り返した結果、多重債務に陥ってしまう大人はますます増えているのです。

生徒が高校を卒業し、社会に羽ばたく前に、金融についてきちんと学ぶことは非常に重要です。就職やアルバイトによって収入を得て、お金を自由に使えるようになる前に、経済のしくみや企業の役割を正しく理解し、そのうえで「金融」のしくみを知ることはとても大切です。さらに、金融商品にはどのような種類があり、どのような選択をすべきかについても基礎的な金融の知識がなければなりません。また、金融商品の利用・活用には、常に「自己責任」がついて回るといっても若いうちに知っておきたい重要なことです。

そして何より、健全な金銭感覚を常に身につけておくことが、キャッシュレス時代・カード社会を安全に安心して暮らしていくことができる最善の手段であるということを生徒たちに教えたいものです。

この教材では、金融のしくみを理解させるために、まず家計や企業について学ぶことから始めます。そしてCD-ROMというメディアの特性を生かし、ぜひ知っておきたい基本的事項を「縦軸」に置き、さらに詳しく学びたい生徒には発展的な学習ができるように「横軸」も用意しました。

一人でも多くの生徒が、この教材を通じて社会のしくみと役割を学び、そのうえで「金融」が社会に欠かせない役割を果たしていることを理解し、自分の生き方や価値観を磨いて、自己実現を果たせるようになってくれることを期待します。

この資料の利用について

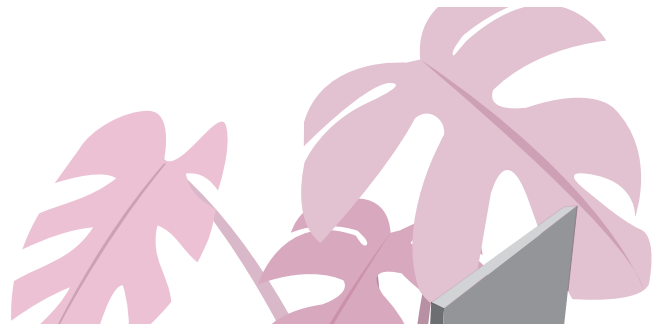
この資料の構成

この資料は、高校生が社会と金融のしくみを正しく理解し、社会人・家庭人としての基本的な知識を身につけさせるためにつくられたものです。生徒用の「パソコンソフト（CD-ROM）」と教師用の「指導マニュアル」（本誌）のセットになっています。

パソコンソフト（CD-ROM）



一般社会でのパソコンの普及とともに、学校現場でもパソコンを使った授業、調べ学習が積極的に行われるようになってきました。この資料（CD-ROM）では、パソコンおよびメディアの特性を最大限に生かした内容を盛り込んでいます。すなわち、テキスト情報だけでなく、音声やアニメーション、ビデオなどによって生徒の関心を喚起するなど、学習の理解を深める工夫を随所に凝らしています。また、各節ごとに「まとめ」のページを設けてプリントできるようにしたほか、クイズや用語集、関連リンクなどによってより詳しい情報を得たり、理解を深めたりできるようにしています。



教師用指導マニュアル



この指導マニュアルは、先生のガイドブックです。パソコンソフト(CD-ROM)の操作方法を紹介するほか、このパソコンソフトを使って授業をしやすいように、

各章のねらいや各節の内容、授業での展開例なども用意しました。この資料が、先生方のよりよい授業づくりのお役に立つことができれば幸いです。

この教材(CD-ROM)の特徴

この教材の内容は「縦軸」と「横軸」で構成されています。ぜひ学んでもらいたい基本的事項を縦軸に、発展的・関連的な事項は横軸に置きました。各章の初めの画面にある「自動再生ボタン」をクリックすると、縦軸の事項のみが展開されます。

各節の終わりには、生徒に興味を持たせ、より知識の定着を図るために、「初級」「中級」「上級」の段階別クイズを設けました。

クイズの後ろには、各節の「まとめ」のページを設け、プリントできるようにしました。「まとめ」の全ページをプリントすれば、金融経済教育の概要版(資料)となり、パソコンがないところでも学ぶことができます。

また、第3章第3節に「多重債務に関する〇×クイズ」を設けました。簡単な質問を次々解いていくことで、社会に出てから困らない最低限の知識を身につけることができます。

活用の手引き



授業での活用例

- ① プロジェクターを用いてCD-ROM内の画面をスクリーンに投影し、授業を進めます。
- ② 一人1台のパソコンを用意できる場合は、このCD-ROMの複製をつくり、生徒各自にパソコンを操作させながら、授業を行います。
- ③ 生徒に貸し出し、自学自習用の教材としても活用できます。

パソコンソフト(CD-ROM)画面の操作方法

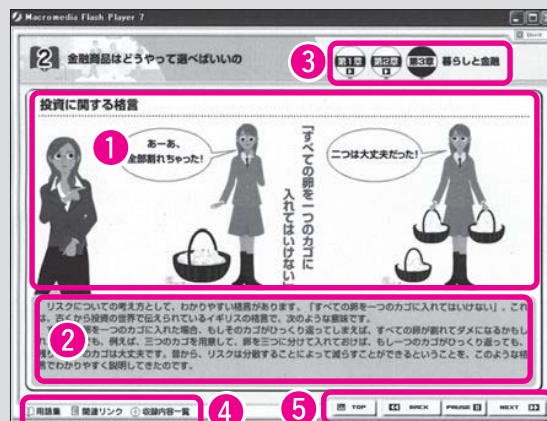
メニュー画面

CD-ROMをパソコンに入ると、自動的にプログラムが起動します。アニメーションによるオープニングに続き、メニュー画面が表示されます。学びたい章をクリックして先に進みます。



基本画面

- ① アニメーションや図表などが表示されます。
- ② アニメーションの会話がテキストで表示されます。
- ③ 学びたい章を選択できます。
- ④ 用語集、関連リンク、収録内容一覧の画面に進みます。
- ⑤ 前の画面、次の画面に進みます。





わたしたちの生活と金融の働き

第1章 社会経済の発展を支える企業

1 Aさんの給与明細を見てみよう

- 家計とは
- 給与明細表
- 支給内容(賃金)
 - 時間外手当
- 税金・社会保険料
 - 税の目的 ● 社会保険制度
 - 年金制度 ● 401K ● 介護保険
- 貯蓄・保険
 - 貯蓄の目的・保険の働き
 - 家計の金融資産に関する世論調査
 - 金融商品
- 給与は銀行振込
 - 為替業務 ● 銀行の役割
- クイズ
- まとめ

2 家計・企業・政府の役割について考えてみよう

- 家計
 - 可処分所得 ● フローとストック
- 企業
- 政府
- クイズ
- まとめ

3 会社にはどのようなものがあるのだろう

- 企業の種類
 - 郵政民営化
- 株式会社の始まり
- 株式会社・株式(株券)
 - 証券決済システム改革
- 資本金
- クイズ
- まとめ

4 Aさんは株主総会に出席しました

- 株主
- 株主総会
 - 株主平等の原則 ● 株主代表訴訟
 - 株式を持つと配当のほかにどのようなメリットがあるか
- 証券投資のリスク
 - 自己責任
- ディスクロージャー(情報開示)
 - IR(投資家向け広報活動) ● 信用格付け ● 粉飾決算
- M&A(合併・買収)
 - TOB(株式公開買付け)
- 証券取引で禁止されている行為
 - 偽装・馴合売買 ● 相場操縦
 - インサイダー取引(内部者取引) ● 風説の流布
- クイズ
- まとめ

5 企業の社会的責任って何だろう

- 企業の社会的責任
 - 社会的責任投資(SRI)
- コーポレートガバナンス
- 企業メセナ
- クイズ
- まとめ

第2章 企業の活力に不可欠な金融

1 お店を始めたい、事業規模を拡大したい、でもお金がない

- お店を始めたい
- 金融の働き
- 預金通帳を見てみよう
- 金融機関の種類
 - ATM(現金自動預け払い機)
 - ネットバンキング ● 電子マネー
- クイズ
- まとめ

2 株式や社債って何だろう

- 企業活動を支える株式・社債
 - 株式と社債の違い
- 銀行や証券市場を通じて家庭から企業へお金が流れる
 - 規制緩和の拡大によるメリット
- 株式市場
- 証券会社と証券取引所
 - 株式の売買と株価
 - 日経平均株価・東証株価指数 ●新興市場
- 【Movie】 東京証券取引所
- クイズ
- まとめ

3 金融機関はどこから利益を得ているの

- 金利
- 調達金利と運用金利
- 金融市場
 - インターバンク市場 ●手形と信用力
- 日本銀行の金融政策
- 金融調節のしくみ
- クイズ
- まとめ



第3章 暮らしと金融

1 将来の生活設計について考えてみよう

- ライフステージと家計
- 住宅を購入する
- 老後を考える(年金制度)
 - 年金制度改革
- 金融商品の活用方法(預ける・備える・運用する)

- 預貯金 ●生命保険・損害保険
- 株式 ●債券 ●投資信託
- 外貨建て金融商品
- 金融デリバティブ

- クイズ
- まとめ

2 金融商品は どうやって選べばいいの

- 金融商品の三つの基準
- リスクについての考え方
- 投資に関する格言
- 消費者を守るためのさまざまな制度
- 預金保険制度
- 金融商品販売法
- 金融商品取引法
- 金融商品を購入する際のチェックポイント
- クイズ
- まとめ

3 金融をめぐる問題・トラブルが急増

- 消費者信用とは(販売信用・消費者金融)
- 販売信用(クレジットカード)
 - なぜ各社がクレジットカードを発行するの?
- 消費者金融(ローン)
- クレジットカード、ローン利用のための5か条
- 多重債務問題
 - グレーゾーン金利 ●改正貸金業法が成立
- 多重債務に陥らないために
- 多重債務に陥ってしまったら
 - 多重債務問題の相談窓口 ●自己破産とは
- 多重債務に関する〇×クイズ
- 金融関係のトラブル
 - 金融関係のトラブルの相談窓口
- クイズ
- まとめ

4 自己責任って何なの

- 契約とは
 - クーリング・オフ制度
- 規制緩和と自己責任
- クイズ
- まとめ

学習指導要領との関連

教科	分野・科目	項目	第1章 社会経済の 発展を支える企業	第2章 企業の活力に 不可欠な金融	第3章 暮らしと金融
高等学校	公民	現代社会 ② 現代の社会と人間としての在り方生き方 イ 現代の経済社会と経済活動の在り方	○	○	○
		政治・経済 ② 現代の経済 ア 経済社会の変容と現代経済の仕組み	○	○	○
	家庭基礎	① 人の一生と家族・福祉 ア 生涯発達と家族	○		○
		③ 消費生活と環境 ア 家庭の経済と消費	○		○
	家庭総合	① 人の一生と家族・家庭 ア 人の一生と発達課題 ウ 生活設計	○		○
		⑤ 消費生活と資源・環境 ア 消費行動と意思決定 イ 家庭の経済生活 ウ 消費者の権利と責任	○		○
	生活技術	① 人の一生と家族・福祉 ア 生涯発達と家族	○		○
		② 消費生活と環境 ア 家庭の経済と消費	○		○



社会経済の 発展を支える企業

この章のねらい

金融のしくみを学ぶ前に、家計を中心に、
社会の基本的なしくみと企業の役割を知り、
それぞれが相互に関係し合うことで
個人、家庭、社会が成り立っていることを理解させます。

第1節

Aさんの給与明細を見てみよう

授業のポイント

給与所得者の給与明細を示し、そこに記載された項目について発展的に学んでいきます。まず、労働の対価である賃金について理解したうえで、税、社会保険制度の役割に進みます。各種保険の種類や役割を知るとともに、貯蓄についても紹介します。また、若者の年金未加入問題を取り上げ、社会保障制度が支えあうしくみであることを理解させ、その重要性に気づかせます。

授業の展開例

1

導入

社会人になると、多くの人は会社から給与明細表をもらいます。給与明細表には、基本給の金額のみが記されているわけではないことに気づかせます。

●給与明細表

氏名		A 様						
基本給	時間外手当	調整手当	皆勤手当	通勤手当			支給額合計	
180,400	7,350	9,020	10,000	9,000			215,770	
健康保険料	厚生年金	雇用保険	介護保険	所得税	住民税	共済会費	控除計	差引支給額
9,020	16,106	1,294	0	3,970	6,900	1,804	39,094	176,676

発問

支給額の合計からどのようなものが控除されていますか？

2

展開1

給与の明細には、会社からもらう支給合計額の金額のみが記されているわけではありません。給与から差し引かれる税金や社会保険料なども記されています。給与の合計支給額から税金や社会保険料など非消費支出を差し引いた額が、実際に支給される「手取り」です。この可処分所得によって家計は営まれていることを学びます。

実習

税金や社会保険料は何に使われているのか調べて発表させます。

実習

税金の種類をあげさせ、それらを国税、地方税、直接税、間接税に分類させます。

●税金の種類

		直接税	間接税
国税		<ul style="list-style-type: none"> ●所得税 ●相続税 ●法人税 	<ul style="list-style-type: none"> ●消費税 ●酒税 ●揮発油税 ●たばこ税 ●関税
	地方税	都道府県税	<ul style="list-style-type: none"> ●都道府県民税 ●事業税 ●自動車税
		市区町村税	<ul style="list-style-type: none"> ●市区町村民税 ●固定資産税 ●事業所税

3

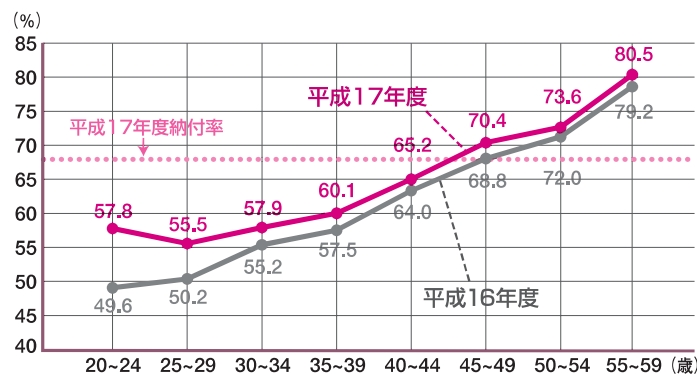
展開2

社会保険料のなかに厚生年金の保険料があります。これは、老後に収入がとだえたときにも安心して過ごすことができるために支払われる保険料です。厚生年金の加入者は、同時に国民年金の加入者となります。すべての国民は、学生であっても20歳以上になると国民年金に加入しなければならないことを理解させます。なお、学生については、申請により在学中の保険料の納付が猶予される「学生納付特例制度」が設けられています。

発問

国民年金保険料の納付率をみると、25歳～29歳の若者の率が最も低くなっています。なぜ低いのですか？

●年齢階級別にみた国民年金保険料の納付率



4

まとめ

給与明細を通して、給与からは、税金や社会保険料が控除されていることがわかりました。これらは、国や地方公共団体が提供する公共サービスの対価や家族、個人の力では支えきれないさまざまな生活の不安に対応するための保障費です。また、公的年金制度は、現役世代が高齢世代を支える世代間扶養によって成り立っていることを理解させます。これらから将来を見据えた人生設計の重要性について学びます。

家計・企業・政府の役割について考えてみよう

授業のポイント

多くの場合、家計は企業に労働を提供し、企業は家計にその対価としての賃金のほか、財やサービスなどを提供しています。また、家計と企業は政府に税金を納め、政府は公共サービスを提供しています。このように家計・企業・政府の間にはお金、財、サービスなどが流れていることを学びます。特にこの三者の関連を知ることは、社会の基本的なしくみを理解するうえで重要です。

授業の展開例

1

導入

第1節で学んだ家計について簡単に復習させます。そして、貯蓄と消費のバランスをとることが家計の安定につながることを学びます。可処分所得、フローとストックについて質問し、その基本的意味を理解させます。

発問

収入を超えて消費したら、家計はどうなりますか？ 国の場合はどうですか？
※国の場合は国債を発行し、財政赤字を補てんしています。

2

展開

家計を中心に、家計と企業、家計と政府の関係について学びます。画面をもとに家計・企業・政府の間には、お金、財、サービスなどが流れていることを理解させます。

実習

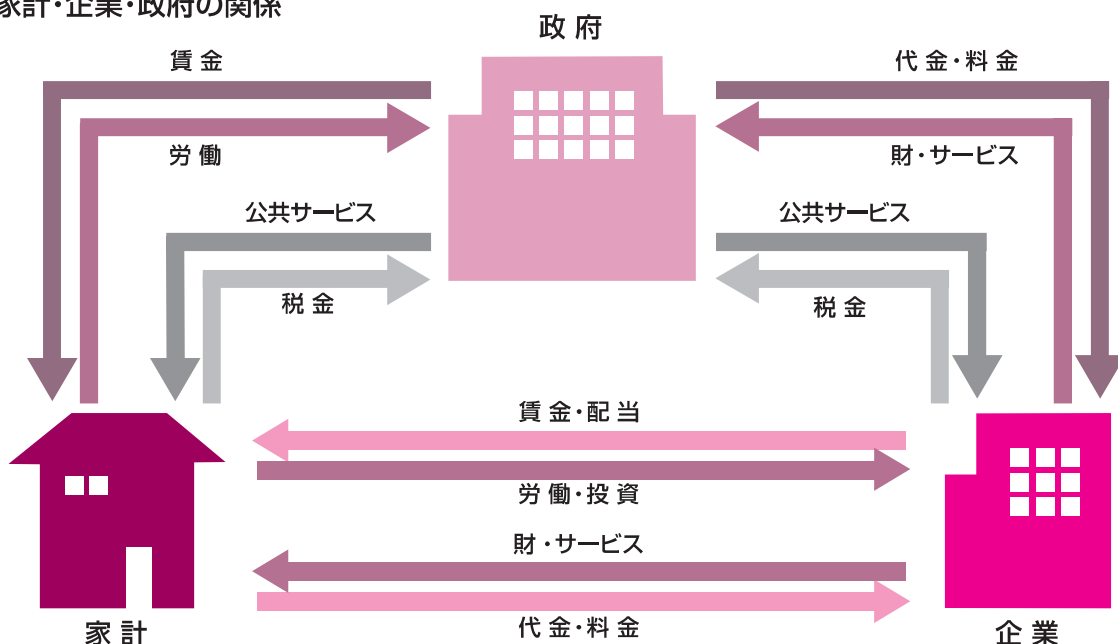
家計・企業・政府の三者の関係について理解できたかどうか、生徒に三者の関係を図示させます。

3

まとめ

家計と企業と政府の間には、財やサービス、お金が流れており、このことを経済の循環、経済の流れといいます。家計・企業・政府は、経済の循環のなかで、経済の主体としてそれぞれの役割を担っていることを理解させます。

●家計・企業・政府の関係



会社にはどのようなものがあるのだろう

授業のポイント

企業にはさまざまな形態があることを紹介します。そして、株式会社の起源（東インド会社）について学習し、株式会社とはどのようにしてつくられたものなのか学びます。

授業の展開例

1

導入

会社法の施行によって、現在の会社の分類は中学校で学んだものとは異なっていることに気づかせます。

発問

中学校で学んだ会社の分類とはどこが異なっていますか？

実習

家や学校の近くにある会社にはどのようなものがあるか調べて発表させます。
※会社法により、有限会社は、株式会社の一種として特例有限会社（取締役会を設置しない株式会社）として取り扱われることになりました。ただし、有限会社には、商号中に有限会社の文言を使用することが義務づけられています。

2

展開

企業のなかで日本を代表するものをあげてみると、そのほとんどが株式会社であることに気づかせます。

発問

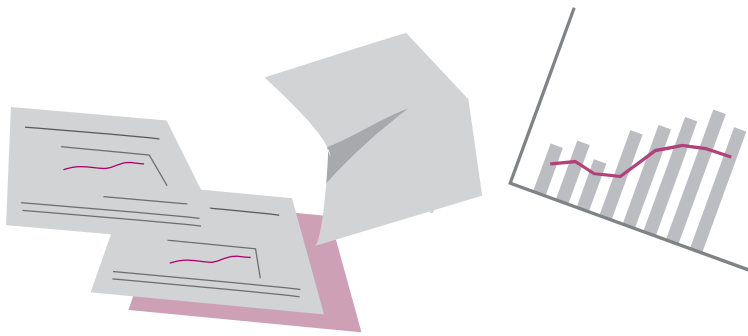
東インド会社では、どのようにして多額の資金を集めましたか？
また、株式会社とそれ以外の会社にはどのような違いがありますか？

3

まとめ

会社をつくるためには、土地、労働（人材）、資産（建物、設備、原材料等）など、いろいろなものをそろえていかなければなりません。これらを自分の資金だけでまかなうのは困難です。しかし、多くの人から少しずつ集めれば、多額の資金を集めることができるかもしれません。そこで、集める資金の単位を小さくして資金を出しやすくしたうえで、たくさんの人から集めた資金をもとに設立した会社が株式会社であり、株式とは、資金を出した人、すなわち株主の持分であることを理解させます。
※ここでの株式会社の理解は、次の第4節「Aさんは株主総会に出席しました」の基礎となります。





第4節

Aさんは株主総会に出席しました

授業のポイント

株主の立場になって企業と株式の関係を学びます。株主に与えられた権利とともに、株式の売買には常にリスクが伴うことを理解させます。さらに投資家はどのようにして企業の情報を得るのか、その方法を紹介するとともに、証券取引において禁止されている行為についても学びます。

授業の展開例

1

導入

6月の終わりごろに、ニュースで株主総会のことがよく報道されます。その新聞記事などを見せながら授業に入ると、生徒たちは株式をより身近なものとしてとらえることができます。具体的に株主総会で何が問題になっているのか、また、なぜ6月末に株主総会が集中しているのか生徒に考えさせます。

実習

新聞記事を見ながら、株主総会ではどのようなことが決められるのか調べて答えさせます。

2

展開1

株主は、一般的に会社の経営が順調なときには、配当（会社の利益のうち株主に分配されるお金）や株主優待制度による特典を得ることができます。しかし、会社が倒産してしまうと、株式はただの紙切れになってしまいます。このように、株式を購入する際には、メリットとデメリットがあることを理解させます。

3

展開2

商品を購入するときには、値段、デザイン、品質などを基準（判断材料）に購入します。それらについての情報がなければ、自分が欲しい商品を適切に購入することが困難であることに気づかせます。

発問

商品を購入するときには、何を基準（判断材料）に購入しますか？

4

まとめ

株式などの証券投資では、企業の経営状況などによって価格（株価）が値上がりしたり、値下がりしたりします。そのため、利益を得ることもありますが、逆に損をしてしまうこともあることを学びます。また、企業の経営状況についてのディスクロージャー（情報開示）などが、法律で義務づけられていることに気づかせます。

企業の社会的責任って何だろう

授業のポイント

企業に求められているのは、利潤追求の経済活動だけではないことを学びます。企業メセナや社会貢献活動を行うことが企業の価値と信頼を高め、ひいては投資家の動向にも影響を及ぼすことを紹介します。

授業の展開例

1

導入

第2節「家計・企業・政府の役割について考えてみよう」で学んだ企業の役割について復習させます。

発問

企業の本来の目的は何ですか？

2

展開

コンプライアンス（法令遵守）とは、法令や社内規程などを守ることの意味します。そのなかには、倫理やモラルなどを守ることにも含まれています。企業には、利潤を追求するだけでなく、コンプライアンスの徹底、地域への貢献、環境への配慮などが求められてきていることを学びます。

実習

家や学校の周りにある企業では、どのような社会貢献活動に取り組んでいるか調べて発表させます。

3

まとめ

企業のなかには、環境保護について考えたり、芸術文化を支援したり、福祉活動を行ったりしているところがあります。そのような企業の株式を購入することが、社会貢献活動につながることを学びます。

第2章

企業の活力に不可欠な金融

この章のねらい

この章では金融のしくみ全般について学びます。

まず初めに株式市場、証券会社と証券取引所などについて理解させ、

金融のしくみの全体像を明らかにしていきます。

お店を始めたい、事業規模を拡大したい、でもお金がない

授業のポイント

生徒が自分自身の立場で考えることができるように、お店を始める際の資金調達の方法から学びます。金融の動きを紹介し、金融の仲立ちをする金融機関の種類について理解させます。また、お金の出し入れを行うATM（現金自動預け払い機）や今後さらに増えていくと予想されるネットバンキングについてもふれていきます。

授業の展開例

1

導入 お店を始めるためには何が必要か考えます。

発問 お店を始めるには何が必要ですか？ そのためのお金はどうしますか？

2

展開 金融とは、その文字が示すように、お金が余っている人からお金が足りない人に、必要とするお金を融通することであることを理解させます。そのような働きをしているものの代表例が銀行であることを学びます。

実習 預金通帳を見て、銀行の働きについて調べて発表させます。

実習 家や学校の近くにどのような銀行があるか調べて発表させます。
※第2節「株式や社債って何だろう」を学習しない場合は、銀行からお金を借りる以外に、株式を発行して資金を調達する手段があることについても理解させる必要があります。

3

まとめ 金融機関にはどのような種類があるのか学びます。そして、さまざまな種類の金融機関がある理由について考えさせます。また、ネットバンキングや電子マネーを利用する際には、どのようなことに注意しなければならないか理解させます。

第2節

株式や社債って何だろう

授業のポイント

企業が資金を調達するには、前節で学習した銀行などからお金を借りる方法のほかに、株式や社債を発行する方法があることを学びます。株式の売買を行う証券市場のしくみを理解してから、株価はなぜ変動するのか考えます。また、この節では、東京証券取引所のマーケットセンターの様子をビデオ映像で紹介します。

授業の展開例

1

導入 第1章第3節「会社にはどのようなものがあるのだろうか」で学んだことを踏まえて、企業は、資金を調達する手段として、株式や社債を発行していることを理解させます。

2

展開 株式の値段は、どのようにして決まるのか学びます。上場されている株式の売買は、証券取引所で行われます。それぞれの株式について、会社のさまざまな情報が反映され、日々株価が変化することを理解させます。

実習 会社の決算発表や業績などに関する新聞記事を持ち寄って、会社のさまざまな情報が株価に影響を与えることに気づかせます。

発問

株価が高くなる会社には、どのような会社がありますか？ それはどうしてですか？

回答例

業績のよい会社

大きな収益が配当として株主に還元されることが期待されるため、株価が高くなります。

成長力のある会社

たとえ現時点で業績がよくなくても、将来大きな成長が期待される会社は、将来の収益・配当が予想されるため、株価が高くなります。

ディスクロージャー(情報開示)が徹底された会社

企業情報を正しく開示する会社は、透明性が確保され投資家が安心して投資をするため、株価が高くなります。逆に、企業情報を正しく開示せず、不祥事等が発生した会社は、会社の将来見通しへの不安により株価が下落します。

3

まとめ

東京証券取引所のビデオを見ながら、株式の売買のしくみについての理解を深めます。また、株価が上昇する要因、下落する要因について考えさせます。会社に関する新聞記事(決算発表・新商品開発・不祥事等)を見せながら、それによって株価がどのような影響を受けたのか調べさせるのもよいでしょう。



第3節

金融機関はどこから利益を得ているの

授業のポイント

金融の仲介役を果たしている金融機関のしくみをみながら、ここでは金利について学びます。金利はどのようにして決まるのか、また、景気を調整させる役割などを担っている日本銀行の金融政策についても学びます。

授業の展開例

1

導入

第1章第1節で紹介した預金通帳から、「手数料」と「利息」の項目に改めて気づかせます。手数料は銀行の収益に、預金者に支払われる利息は銀行にとって費用にそれぞれあたることを理解させます。

2

展開1

金利はどのようにして決まるのか学びます。資金の供給者が資金の需要者よりも多ければ、金利は下がります。逆に、資金の供給者が資金の需要者よりも少なければ、金利は上がります。金利は、一般の商品と同様、需要と供給によって決まることを理解させます。

実習

銀行のローンの金利(例えば住宅ローンの金利)と預金金利を比較させ、どちらが高いか発表させます。そして、銀行はどこから収益を得ているのか答えさせます。

3

展開2

日本銀行では、公開市場操作(オペレーション)などを政策手段として金融市場に出回るお金の量を調整しています。金利が景気対策にどのような役割を果たすか理解させます。

実習

日本銀行の役割について調べて発表させます。

※日本銀行の金融政策は、かつては公定歩合の上下が中心でした。しかし、金利自由化の時代になり、金融機関の預貯金金利との制度上の連動性がなくなったため、今日では、公開市場操作が金融政策の中心的な手段になっています。

4

まとめ

金融機関は、資金を仲介することで利益をあげています。個人などの預金に対して支払う金利と、そのお金を家計や企業などに貸し付ける際に得る金利の差が、金融機関の収益になっていることを理解させます。また、この金利は、日本銀行の政策によって大きく左右されていることに気づかせます。さらに、送金するときにかかる手数料なども、銀行の収益になっていることを確認させます。

第3章

暮らしと金融

この章のねらい

初めに、高校生にはまだ遠いテーマ、ライフステージという考え方を理解させます。

その中で、金融商品の「預ける」「備える」「運用する」という三つの活用方法を紹介するとともに、金融商品の選択の仕方について学びます。さらに、最近ますます深刻化する多重債務問題と多重債務に陥らないための自己責任について考えさせます。

また、この章には「多重債務に関する〇×クイズ」を設けています。

クイズに挑戦することで、多重債務に陥らないための基本的な知識を得られるようにしています。

第1節

将来の生活設計について考えてみよう

授業のポイント

生徒に生活設計における経済計画について考えさせ、例えば、教育やマイホームの取得、老後生活などライフステージによって多額のお金が必要であることを理解させます。そのうえで「預ける」「備える」「運用する」という金融商品の活用方法を学び、さまざまな金融商品の特徴を紹介していきます。

授業の展開例

1

導入

高校を卒業した後の生活設計について生徒一人一人に考えさせます。授業では、お金に限った話になりますが、実際には将来の生活設計を考える場合は、お金がすべてではないことについても理解させる必要があります。

実習

ライフイベントワークシートなどをつくらせます。

2

展開1

将来、家を購入する場合、多くの人は住宅ローンを組みます。住宅ローンのチラシを集め、金利を比較してみるのもよいでしょう。また、ローンを組んだ場合は、計画的に返済していかなければならないことを理解させます。

実習

住宅ローンの金利と預金金利を比較させ、住宅ローンの金利のほうが高いことを理解させます。また、その理由についても考えさせます。

3

展開2

高齢期に、安心して生活できるようにするために設けられているのが、年金制度であることを理解させます。

発問

家計調査によると、高齢者の世帯主の家計は赤字・貯蓄が低いという結果が出ています。どうしてですか？

4

まとめ

住宅ローンをはじめ、将来の生活を支える金融商品にはさまざまな種類があることを学びます。金融商品の活用には、「預ける」「備える」「運用する」の三つの方法があることを理解させます。

第2節

金融商品は どうやって 選べば いいの

授業のポイント

金融商品には「安全性」「流動性」「収益性」の三つの基準があり、それらすべてに優れた金融商品はないことを理解させます。また、金融商品にはリスクがあることを学びます。

授業の展開例

1

導入

安全性、流動性、収益性の三つの基準がすべて高水準となる金融商品はないことを理解させます。

実習

安全性の観点から、預貯金と株式投資を比較させます。同様に、収益の観点からも比較させます。

2

展開1

リスクというと、すぐに「危険」というイメージを抱いてしまう生徒が多いかもしれません。金融商品でいうリスクとは、「不確実性」のことを意味していることを理解させます。リスクについて理解させる上で、格言を紹介するのもよいでしょう。CD-ROMで紹介している「すべての卵を一つのカゴに入れてはいけない」以外に、次の格言があります。

格言

「遠くのは避けよ」

よく知らないタイプの商品に飛びつくより、身近によく知った商品に投資するほうが、情報不足から生じるリスクを少なくすることができるという格言です。

3

展開2

投資の対象となる金融商品にはさまざまなものがあり、消費者の選択肢が増えるとともに、思わぬ損害を受けるケースが出てきました。そのため、預金保険制度、金融商品販売法、金融商品取引法など、金融商品を購入する消費者を守るための制度があることを理解させます。

4

まとめ

将来、金融商品を購入するにあたって、最低限おさえておかなければならないことをチェックポイントにまとめました。このチェックポイントを○×クイズにして、生徒に答えさせ、金融商品を選ぶ際に大切なことは何か考えさせます。

第3節

金融をめぐる問題・トラブルが急増

授業のポイント

消費者信用には販売信用と消費者金融があることを紹介し、クレジットカードのしくみを理解させます。そのうえでクレジットカードやローンを利用する際に気をつけなければならないことを学びます。

授業の展開例

1

導入

高校生はクレジットカードを持つことができません。でも、社会に出れば、多くの人が持つことになると思います。ここでは、クレジットカードやローンのメリットとデメリットについて生徒に考えさせます。

2

展開

クレジットカードもローンも借金であることを理解させます。そして、その無計画な利用が多重債務という事態を招いてしまうことを学びます。

実習

消費者金融会社の広告を見て、銀行の利息と比較させます。

発問

銀行の金利と消費者金融会社の金利はどちらが高いですか？ それはなぜですか？

実習

消費者金融会社の広告を見て、単利と複利の計算をさせます。

発問

借金を返すために借金をするとどうなりますか？

実習

多重債務に陥るプロセスを考えさせます。

3

まとめ

金融関係のトラブルに巻き込まれたら一人で悩まずに、弁護士会の法律相談センターや司法書士会、消費生活センターなどに相談することの大切さを理解させます。

自己責任って何なの

授業のポイント

金融商品の利用や購入では、自ら主体的に判断しなければなりません。当然、その際には責任(自己責任)が伴うことを理解させます。金融商品の利用は契約行為であり、購入者と企業にはそれぞれ守る義務があることを学びます。

授業の展開例

1

導入

クレジットカードの契約も消費者金融からのお金の借入れも、法的な約束事ですから、消費者には守る義務があることを理解させます。

2

展開

契約は、原則として一方的に解約することはできません。しかし、クーリング・オフの制度では、法令で定められた商品・サービスについては、契約書の交付を受けた日から8日以内に、相手に対し解約の通知を行えば、違約金を払うことなく契約を解除できることを学びます。

実習

クーリング・オフするための契約解除通知書を書かせます。

●クーリング・オフできる商品・サービス

商品					消耗品
観賞用植物	建具	糸糸	ミシン	電動工具	健康食品
はかり	血圧計	電話機	望遠鏡	メガネ	織物
写真器具機械	消火器	時計	警報機	電卓	生理用品
家庭電気器具	家具	おもちゃ	事務用品	暖房器具	化粧品
自動二輪車	自転車	衣服	浴槽	ナベ	防虫剤
食器	新聞紙	書籍	磁気記録媒体	楽器	洗剤
釣り具	かつら	布団	カーテン	仏壇神棚	歯ブラシ
石材製品	美術工芸品など				履物
					壁紙など

サービス	
物品の貸与	物品の取付け・設置
保養施設・スポーツ施設の利用	映画鑑賞
エステティックサロン	衣服の仕立て
自宅への入居申込み手続の代行	庭の改良
家屋での有害動植物の防除	住居の清掃
技芸・知識の教授など	

3

まとめ

今後、社会に出たら、自分で責任をとらなければならない機会が増えてきます。その意味を理解させるとともに、企業には説明責任を果たす義務があることが法律で定められていることに気づかせます。

※消費者団体訴訟制度がスタートします

平成19年6月7日から消費者団体訴訟制度がスタートします。この制度は、消費者全体の利益を擁護するため、一定の消費者団体に事業者の不当な行為に対する差止請求権を認めるものです。

学習指導要領における記述

1 学習指導要領「公民」における記述

現代社会

② 現代の社会と人間としての在り方生き方

イ 現代の経済社会と経済活動の在り方

現代の経済社会における技術革新と産業構造の変化、企業の働き、公的部門の役割と租税、金融機関の働き、雇用と労働問題、公害の防止と環境保全について理解させるとともに、個人と企業の経済活動における社会的責任について考えさせる。

政治・経済

② 現代の経済

ア 経済社会の変容と現代経済の仕組み

資本主義経済及び社会主義経済の変容、国民経済における家計、企業、政府の役割、市場経済の機能と限界、物価の動き、経済成長と景気変動、財政の仕組みと働き及び租税の意義と役割、資金の循環と金融機関の働きについて理解させ、現代経済の特質について探究させるとともに、経済活動の在り方と福祉の向上との関連を考察させる。

2 学習指導要領「家庭」における記述

家庭基礎

① 人の一生と家族・福祉

ア 生涯発達と家族

生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題を踏まえて、男女が協力して家庭を築くことの意義と家族や家庭生活の在り方について考えさせる。

③ 消費生活と環境

ア 家庭の経済と消費

家庭の経済生活、社会の変化と消費生活及び消費者の権利と責任について理解させ、消費者として主体的に判断できるようにする。

理解させる。

イ 家庭の経済生活

家庭経済と国民経済とのかかわりについて理解させ、主体的な家計管理と家庭の経済計画の重要性について認識させる。

ウ 消費者の権利と責任

消費生活の現状と課題、消費者問題と消費者の保護、消費者の責任及び生活情報の収集・選択と活用について理解させ、消費者として主体的に判断し責任をもって行動できるようにする。

家庭総合

① 人の一生と家族・家庭

ア 人の一生と発達課題

生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて認識させる。

ウ 生活設計

青年期の課題を踏まえ、生活設計の立案を通して、自己の生き方や将来の家庭生活と職業生活の在り方について考えさせる。

⑤ 消費生活と資源・環境

ア 消費行動と意思決定

消費行動における意思決定の過程とその重要性について

生活技術

① 人の一生と家族・福祉

ア 生涯発達と家族

生涯発達の視点で各ライフステージの特徴と課題について理解させ、青年期の課題を踏まえて、男女が協力して家庭を築くことの意義と家族や家庭生活の在り方について考えさせる。

② 消費生活と環境

ア 家庭の経済と消費

家庭の経済生活、社会の変化と消費生活及び消費者の権利と責任について理解させ、消費者として主体的に判断できるようにする。

関連機関等 URL リンク集

金融庁

<http://www.fsa.go.jp/>



日本銀行

<http://www.boj.or.jp/>



金融広報中央委員会

<http://www.shiruporuto.jp/>



国民生活センター

<http://www.kokusen.go.jp/>



日本司法支援センター(法テラス)

<http://www.houterasu.or.jp/>



日本弁護士連合会

<http://www.nichibenren.or.jp/>



日本司法書士会連合会

<http://www.shiho-shoshi.or.jp/>



財団法人

日本クレジットカウンセリング協会

<http://www.jcca-f.or.jp/>

発行 内閣府政府広報室
編集 金融庁
編集協力 金融広報中央委員会
制作 社団法人 日本広報協会